

公欠に関するガイドライン

2019年4月ソフトウェア実験委員会

下記の内容はあくまでガイドライン（基本的なルール）ですので、公欠が認められるか否かは、ソフトウェア実験委員会（教員）が最終判断します。

- 急病の場合でも重篤でなければ、ソフトウェア実験担当教員に連絡したり、友人に伝言を頼むことは可能である。よって、救急車で運ばれるような重篤の場合を除き、事前連絡がなければ、後日に診断書や病院領収書とともに公欠願が提出されたとしても、公欠を認めない。重篤な状況であったことを示すためには、診断書の提出が必須となる。
- 検査や手術を理由に公欠する場合、緊急性があり、欠席する日に検査や手術を行う必要があることを示す書類（病院や医師による発行）を公欠願に添えなければ、公欠を認めない。例えば、抜歯は手術に該当するが、緊急性が低いため公欠を認めない。
- 交通事故で負傷した場合、重篤でなければ、ソフトウェア実験担当教員に連絡したり、友人に伝言を頼むことは可能である。よって、救急車で運ばれるような重篤の場合を除き、事前連絡がなければ、後日に診断書や病院領収書とともに公欠願が提出されたとしても、公欠を認めない。重篤な状況であったことを示すためには、診断書の提出が必須となる。
- 交通事故で負傷はしていないが現場を離れられない場合（救護者となった場合など）、ソフトウェア実験担当教員に連絡したり、友人に伝言を頼むことは可能である。よって、事前連絡がなければ、公欠願が提出されたとしても、公欠を認めない。また、事故の有無を確認できるように、事故発生日時や場所をソフト実験委員長に連絡すること。
- 慶事（結婚式等）は開催日よりもかなり前に知らされるはずなので、欠席日の1ヶ月までに事前に公欠願を提出しなければ、公欠を認めない。
- 弔事（通夜や葬式）による欠席は、曾祖父母または曾孫、おじ・おば・甥(おい)・姪(めい)など三親等の弔事に限る。弔事は突然知らされることになるので、事前に公欠願を提出することは難しいが、ソフトウェア実験担当教員に連絡することは可能である。よって、通夜または葬式で欠席する場合は、事前連絡がなければ公欠を認めない。また、事前連絡があったとしても、事後速やかに公欠願が提出されなければ、公欠を認めない。忌服期間は最長1週間とする。したがって、弔事で2週間連続の公欠は認めない。
- 法事による欠席は、祖父母・兄弟姉妹など二親等の法事に限る。開催日よりもかなり前に知らされるはずなので、欠席日の1ヶ月前までに事前に公欠願を提出しなければ、公欠を認めない。忌服期間は最長1週間とする。したがって、弔事で2週間連続の公欠は認めない。
- 本学の部活やサークルの大会に選手や代表として出席するためにソフトウェア実験を欠席する場合、公欠届とともに部活の顧問または責任者が発行する公欠届受理願（書式任意）を提出しなければ、公欠を認めない。また、大会にボランティア（準備等）で参加するための公欠は認めない。
- 学外活動として大会等に参加する場合は、公欠は認めない。